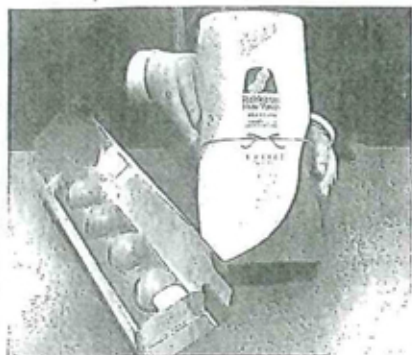


落花生農家

収穫量、計画を達成

菓子工房アントレのパティシエが
開発した「落花生水ようかん」



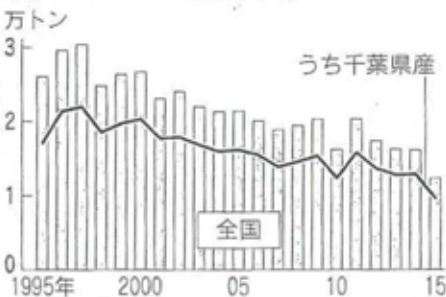
支援策に実り

千葉県を代表する農産物、落花生の生産農家を支援する県内プロジェクトが成果を上げ始め、地元パティシエの協力を得て、落花生を使った第1弾商品をこのほど開発。10日に発売するプロジェクトによる今季の収穫量は当初計の40%を達成した。落花生の生産は農家の高化や安価な中国産の輸入増を背景に減少傾向が続くが、プロジェクトを通じて2万トンの収穫を目指す。

ふたの国から

県産品を使った土産物「クト」は3月に開始。農を製造・販売するやます業生産法人などを通じて、(千葉県市原市)と千葉新規就農や農機具の貸し興業銀行が連携した「落花生の契約栽培プロジェクト」の出し、落花生の契約価格での買い取りなどによっ

落花生の収穫量は20年前の半分以下に



パティシエ協力 ようかん商品化

JR千葉駅構内の「アルチザン イン チバ」では
12月中旬から新商品の取り扱いを始める (千葉市)



同社以外にも商品開発の希望が寄せられている。

支援している。第1弾商品の開発では洋菓子店「菓子工房アントレ」を運営する高木商事(同県船橋市)が協力。パティシエが落花生を使った「落花生水ようかん」を開発した。落花生ペーストと白あんを混ぜ、さっぱりとした甘みに仕上げた。ようかんの中には塩味のゆで落花生3粒を入れる、落花生の食感も楽しめる。新商品は船橋市内の菓子工房アントレで10日から、JR千葉駅構内にこのほど開業した商業施設「ペリエ千葉エキナカ」の菓子店「アルチザン イン チバ」では12月中旬から取り扱いを始める。価格は4個入り1512円、8個入り3024円。土産物や贈答品としての需要を見込む。